



震災遺構の保存、在り方考える 福島県大熊町で「伝承の仲間づくりサミット i n 大熊」

震災や戦禍、公害に見舞われた地域で伝承活動に当たる団体のシンポジウム「伝承の仲間づくりサミット i n 大熊」は11日、福島県の大熊町交流施設 i n k 大熊で開かれた。震災遺構の保存や体験者の語りを残す取り組みの在り方を考えた。

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の伝承に取り組む大熊町の一般社団法人大熊未来塾の主催。「のこすこと、伝えることの先に」などをテーマに、県内外から約130人が参加した。

震災の津波で行方不明になった次女を探し続けている大熊町の木村紀夫さん、多数の児童と教職員が犠牲となった宮城県石巻市の大川小の語り部・佐藤敏郎さんをはじめ、広島、沖縄両県、熊本県水俣市などから計6人が登壇した。

木村さんと佐藤さんは、過去に発生した出来事を自分事として捉える姿勢が必要とした上で「話を聞いた人々が中心となり、議論の場を広げてほしい」と呼びかけた。



伝承活動の在り方などについて意見を交わしたシンポジウム